

Webアクセシビリティ指針

—すべての人に優しいウェブサイトをめざして—

Ver. 1

茨城県

平成19年1月

Webアクセシビリティ指針

1 目的

この指針は、2004年6月制定された「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ（以下「ウェブコンテンツ JIS」という。）」の主旨を踏まえ、ホームページを通じて提供される情報に対して利用者や利用環境の違いによって生じる制約を極力排除し、もってウェブコンテンツのアクセシビリティを確保・向上させることを目的とする。

ウェブのアクセシビリティとは

アクセシビリティとは「近づきやすさ」といった意味があり、ウェブにおけるアクセシビリティとは、様々な利用者（障害者や高齢者）や異なる利用環境（OSやブラウザ）に拘わらず、そのウェブサイトから情報が得られる（＝「使える」）ことを意味する。

また、この指針では、画面からの内容把握のしやすさや操作性のよさ等、ウェブの「使いやすさ（ユーザビリティ）」への配慮についても、その目的や内容は「使えること（アクセシビリティ）」と共通する部分が多いため、特に両者を区別せずに「アクセシビリティ指針」として規定を行っている。

2 指針の適用対象

(1) 対象となるウェブサイト

茨城県ホームページ (<http://www.pref.ibaraki.jp/>)（以下「県HP」という。）

(2) 対象となる時期

県HP上のコンテンツの新規作成、更新時

ただし、上記に該当しない時期でも、コンテンツの作成者は当指針に適合しない事項を認めた場合、適宜その不適合箇所を是正していくことを推奨する。

(3) 対象となる作成者

県HP上に掲載するコンテンツを作成する者

なお、「コンテンツを作成する者（以下『作成者』という）」とは、県職員のみならず、県から作成を受注した業者も含め、県HP上のコンテンツ作成に関する全ての者をいう。

3 情報発信について

作成者は県HPから情報発信を行う場合、当指針及び「茨城県ホームページ基本ガイドライン」に充分配慮したデータを作成の上、「インターネット情報の管理事務処理要領」（平成11年11月4日制定）により情報発信を行わなければならない。

また、当指針に規定がない事項については、ウェブコンテンツ J I S 「情報通信における機器・ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ J I S X8341-3」

（以下「ウェブ JIS」という。）、「公共分野におけるアクセシビリティの確保に関する研究会報告書」（http://www.soumu.go.jp/s-news/2005/051215_1_txt.html）等を参照し、アクセシビリティの確保に努めなければならない。

4 HPデータの作成方法について

(1) 担当職員が作成する場合

HP作成ソフトの使用など、効率的にデータを作成できる手法を採用し、担当者の変更によりデータ管理が困難になるような不具合を生じないように注意すること。

- 1 日本IBM(株)のホームページビルダー (Ver.6以降) を使用してHPデータを作成する場合、「どこでも配置モード」ではなく、「標準モード」を使用すること。
 - 2 Microsoft Word 及び PowerPoint を使用 (HTML方式の保存) したHPデータ作成は行わないこと。
- (参考) 上記作成方法を用いた場合、下記のような問題が生じるおそれがある。
- ・利用者の使用するブラウザによっては表示が異なってしまう場合がある。
 - ・画面表示が崩れた結果、リンクボタンが押せないといった不具合が生じる。
 - ・視覚障害者が使用する音声読み上げソフトで正確に読み上げができない。
 - ・不要な情報が記載されたり、文書構造が複雑になるため、データ管理が煩雑になるおそれがある。

(2) 業者に委託する場合

仕様書において、本指針に基づくアクセシビリティを確保するよう記述すること。

- (a) できる限り、スタイルシートを使用し、文書構造と表現を分離すること。
- (b) スタイルシートに対応していないブラウザや、スタイルシートが適用されない環境を考慮すること。

スタイルシートを適用した場合、ブラウザやそのバージョンにより表示が異なる場合があるので、複数のブラウザ、バージョンで確認すること。

スタイルシートをはずした場合に、元々表示されているメリハリやグループ分け、見出し構造、文書の構造等が理解しにくくなっていないか、確認すること。

※スタイルシート

文書の論理構造を記述する HTML からスタイル指定を分離する、というのがスタイルシートの目的の一つである。このことから、スタイルシートではページの見栄えを指定する事ができる。また、スタイルシートではHTMLで見栄えを指定するよりも分かりやすく且つ高度に調整が出来る。

- ・ 編集するに当たって、HTML だけでデザインまでこなしてしまうより分かりやすい
- ・ HTML と分けて書けるので、デザインならデザイン、内容なら内容に集中できる
- ・ デザインを一つ決めれば、他の HTML 文書に簡単に流用できる
- ・ スタイルシートでまとめて書いておけば、デザインの変更も楽にできる

などの利点がある。

5 データ作成上の技術的な注意事項

県HPから情報を発信しようとする作成者は、ウェブが全ての人にとって重要な情報源として利用されていることを充分認識し、作成されたデータが以下の事項に適合するよう努めなければならない。

(1) 適切なファイル名、ディレクトリ名を付すること

(a) ファイル名やディレクトリ名は英半角小文字と半角数字のみを使用すること。

<どんな問題があるか>

ファイル名を全角や平仮名等で指定すると、ファイルが転送できない、ファイル名が正しく表示されない、ウェブ上で正しいページ表示ができない、ファイルの削除ができなくなる、といった不具合が生じることがある。(半角英字についてもデータ管理上、一般的には小文字に統一しておいた方がよい。)

検索エンジンによっては、キーワードと一致するファイル名を強調して表示する場合もある。

(b) ファイル名やディレクトリ名はできるだけ短くすること。

<どんな問題があるか>

長いファイル名を設定するとURLが長くなり、利用者にとって扱いにくい上、入力ミスを招くことがある。

<参考>

ただ短いだけでなく、その内容が容易にわかるようなファイル名等を付けることが望ましい。SEO対策にも有効な場合がある。

(2) 適切なページタイトルの設定

・各ページにはそのページの内容を表す「固有の」ページタイトルを付けること。

<どんな問題があるか>

・視覚障害者は、音声読み上げソフトを利用して画面を「読み上げる」ことで情報を得ている。

音声化ソフトはページタイトルを最初に読み上げるため、適切なタイトルが付けられていない場合、利用者はそのページに目的の情報があるかどうか判断できない場合がある。

・「お気に入り(ブックマーク)」や「閲覧ページの履歴」にはページタイトルが記録されるため、適切なタイトル設定がされていないと、利用者が後から情報を検索する時に、欲しい情報が何処にあったのか特定できない場合がある。

<実装例>



<title>〇〇</title>

〇〇に適切なタイトルをつける

○<title>茨城県ホームページ > 県庁舎案内</title>

…大まかな内容が理解できる

×<title>ページ1</title>

…内容がわからない

また、同じタイトルが続くと、必要とする情報の所在がわからなくなるため、ページタイトルは「固有」のページタイトルとする必要がある。

良い例

<title>茨城県ホームページ>ひばり 2006_11 月</title>

:

<title>茨城県ホームページ>ひばり 2006_〇月</title>

悪い例

<title>茨城県ホームページ>ひばり</title>

:

<title>茨城県ホームページ>ひばり</title>

(3) 論理構造に従った記述

(a) 強調したい部分は太字 (b) タグや斜体 (i) タグではなく、強調 (em) や (strong) タグを使用すること。

(b) 見出しを表す場合はフォントのサイズではなく、見出し (h) タグを使用すること。

<どんな問題があるか>

音声化ソフトの読み上げは論理構造の情報をベースにしているため、「見た目」は同じでも、適切な要素で記述していない場合は、作成者の意図が十分に伝わらない場合がある。

<参考>

音声化ソフトには、声の抑揚等で強調箇所や見出し箇所を区別して読み上げる設定がある

(4) 適切なファイルの提供 (ファイルサイズ・PDFファイル)

(a) 写真や絵を多用した「重い」データの作成は避けること。

(b) 大きなファイルを使用する場合は、テキストや小さいサイズの画像 (サムネイル) からリンクを貼って対応すること。

(c) サムネイル設定や各種ファイル (PDF 等) のダウンロードを提供する場合は、ファイル形式、データサイズ及びプラグインの入手方法などについて明記すること。

<どんな問題があるか>

ファイルサイズが大きいページは、利用環境によってはダウンロードに時間を要し、情報へのアクセスに支障をきたす場合がある。

<参考>

サイズが大きいデータには、ファイル形式やファイルサイズ等、利用者がそのファイルを問うか否かを判断できる情報を提供する必要がある。

(d) PDF ファイルにはテキストによる同等の情報提供を行うことが望ましい

<どんな問題があるか>

PDF ファイルには音声化ソフトが充分に対応していないため、視覚障害者が情報を得られない場合がある。

(5) リンクや画像表示の設定

リンク等の指定は「絶対パス（リンク先としてURLを直接指定する）」ではなく「相対パス（現在のページとリンク先の位置関係）」を使用して行うこと。

<どんな問題があるか>

絶対パスでリンク指定をした場合、リンク先のファイル名変更等によって、リンク切れを引き起こし、利用者が必要とする情報が得られないことがある。

<実装例>

- `広報`
…広報誌ひばり（リンク元）の1階層上の広報ファイル（リンク先）を指定する。
- × ``
…データ作成時にリンク切れのチェックが出来ない、リンク先のURLの変更や移動に伴いデータを修正しなくてはならない。

(6) パンくずリスト型ナビゲーションガイドの設置

各ページにはパンくずリスト型のナビゲーションガイドを設置する。

<なぜ必要か>

・「パンくずリスト」型のナビゲーションガイドは、「サイトの階層構造を示す案内役」である。また、各階層の名称にリンクを張り、「ナビゲーション」としての役割も果たす。トップページからの流れを明示すると、利用者は現在のページとサイト全体との関連性を直感的に理解することができる。

JISX8341-3には、「作業の中断などによって、それまでの操作の記憶があいまいになり、現在の位置の把握又は作業の目的が分からなくなる場合がある」という理由で、現在位置を示す要素を置くことを薦めている。「パンくずリスト」で現在位置を把握できれば、一度サイトの利用を中断した場合でも、再度そのページに戻って来やすくなる。

(7) トップページへのリンク

全てのページには、トップページ及びサイトマップへのリンクを設けること

<なぜ必要か>

- ・トップページは総合案内所です。コンテンツのどこにいてもトップページへ戻ることができるように、トップページへのリンクを設けること。
- ・サイト内全てのページに統一したグローバルナビゲーションを設けることが望ましい。
- ・サイトマップへのリンクを設ける代わりに、サイト検索機能を設置することにより代用することもよい。

(8) 問い合わせ先の明記

各ページには課・担当係・連絡先を明記する。連絡方法はメールだけではなく、電話番号やFAX番号を明記する。

<なぜ必要か>

- ・利用者がページに掲載されている情報に対して問い合わせを行いたいときに、そのページの管理をどの部局が行っているかわからない。
- ・利用者の問い合わせ方法をメールに限定してしまうと、キーボード入力に困難な人（高齢者や障害者）が十分な情報を得る妨げとなるおそれがある。

(9) 画像等に対する情報提供

- (a) 画像には、その説明を alt 属性（代替テキスト）として付与するか、画像の近くにテキストで説明を表示すること。
- (b) 画像に伝えたい情報がない場合でも、空の alt 属性を必ず付与すること。

<どんな問題があるか>

- ・特に全盲の視覚障害者にとって、代替テキストやテキストによる補足説明がない画像からは全く情報を得ることができない。
- ・利用者の中には、テキストブラウザやブラウザの画面表示機能をOFFにして使用している場合があり、情報が画像のみによって提供されている場合、情報を得ることができないおそれがある。

<実装例>

- ・ ``
 - 画像に関する簡潔な説明を代替テキストとして付与すること。
 - 例えば、``とすると、「写真1」と読み上げられるため、画像についての情報が利用者に伝わらない。
- ・ 画像に対する長めの解説が必要な場合は、テキストによる情報提供を行う。
- ・ 特に伝えるべき情報のない画像には、`<alt="">`として、あえて画像に情報を付与していないことがわかるようにすること。

→ メール… この「」の画像に「メール」という alt 属性をつけた場合、「メールメール」と同じ情報を2度読み上げてしまう。

- * 伝えるべき情報の有無を問わず、画像に対しては必ず alt 属性を付与すること。

(c) リンクを貼る画像（アイコン）にはリンク先の大まかな内容が予測できる alt 属性を付与すること

(d) リンクを貼る文字についても、リンク先の内容がわかるような表現にすること。

<どんな問題があるか>

- ・アイコンに alt 属性が付与されていないと、音声化ソフトはリンク先のURLを読み上げるため、そこにどのような情報があるのかわからない。
- ・視覚障害者等の中には、Tab キーによりページ内のリンクのみを辿って情報を検索する場合があるため、リンクを貼った文字自体に情報がない場合、ジャンプした先にもどのような情報があるのかわからない。

<実装例>

→ `〇〇〇の案内図へ` … リンク先の概要が把握できる
`ここをクリック` … リンク先の概要がわからない

(10) 文字表記に関する配慮

(a) ウェブ上の文章は、外来語や省略語、専門用語などの使用を避け、できるだけわかりやすい表現を心がけ、わかりにくい場合には解説や注釈をつけるとなどの配慮を行うこと。

<どんな問題があるか>

外来語や省略語、専門用語を多用すると、利用者（特に子供、高齢者など）がその内容を理解できない場合がある。

(b)文字サイズはやむを得ない場合を除き、フォントサイズ（絶対値）ではなく、相対値で指定すること。

<どんな問題があるか>

ページ内のフォントサイズを固定すると、ブラウザの機能を使用した文字サイズの変更ができなくなるため、高齢者や弱視の方にとって読みづらい場合がある。

<実装例>

- … ブラウザの機能によりサイズ変更可（±3まで対応）
- × … 利用者によるサイズ変更ができない。
- * 見出しとなる部分にはフォントサイズではなく、<H>タグ（H1からH6まで）による論理づけを行うこと。（指針5（3）（b）参照）

(c)見栄えを整えるために、単語の間にスペースを入れたり、省略語を使用しないこと。

<どんな問題があるか>

・行幅を整えるために文字間にスペースを入れたり、単語を省略した場合、音声化ソフトで正確に読み上げられない場合がある。

<実装例>

- 「募集期間」「未定」 … 「ぼしゆうきかん」「みてい」と読み上げ
- × 「募 集 期 間」「未 定」 … 「ぼつどいきあいだ」「ひつじさだめ」と読み上げ
- 火曜日（金曜） … 「かようび」「きんよう」と読み上げ
- × （火）（金） … 「ひ」「かね」と読み上げ

(d)半角カタカナや特殊記号等の機種依存文字・外字は使用しないこと。

<どんな問題があるか>

半角カタカナや特殊記号等の機種依存文字や外字は利用環境によって文字化けを引き起こし、正確な情報が伝わらないことがある。

<参考>

機種依存文字… 特定の機種や環境（OS）でのみ表示されるため、他の環境では見え方が違ったり、見えない場合があるので、データ作成にあたっては使用すべきではない文字

（例） ①②③/Tel/(株)(有)/ミ、キ、□/㎡ cc/I II III/ など

（11）色による情報伝達

(a)色による情報提供を行う場合は、テキストによる情報を併記すること。

<どんな問題があるか>

色のみで情報が提供されている場合、音声から情報を得ている視覚障害者や色覚障害者は、情報を得ることができない。

(b)文字色と背景色には十分なコントラストを確保する。背景に画像を使用する場合には文字の周辺を単色にするなど、必要な対策を講じること。

(c)文字色と背景色に十分なコントラストを確保するためには、やむを得ない事情がある場合を除き、背景には写真や画像を設定しないことが望ましい。

<どんな問題があるか>

- ・ウェブ画面の色使いによっては、色覚障害者は色の判別ができずに正しい情報を得られない場合がある。
- ・文字色と背景色に十分なコントラストが確保されていない場合、視覚や色覚の障害の有無に関わらず、健常者にも見づらいページとなっていることが多い。

(12) 操作・入力に関する留意事項

(a) ページ間及びページ内の移動がスムーズできるよう、適切なリンクを設定すること。

<どんな問題があるか>

- ・縦にスクロールするページで、ページトップに各項目へのナビゲーションをつけられていなかったり、ページ末尾に「ページトップへ戻る」といったリンクがない場合、ページ内の効率的な移動の妨げになる。
- ・「メニューページに戻る」といったリンクがない場合、リンク先からリンク元のページに戻れない場合があるため、ページ間の移動に支障をきたすことがある。

<参考>

リンクの表現や位置をできるだけ統一するなど、利用者の立場に立った適切なリンク設定を行うこと。

(b) ウェブ画面上の操作はキーボード（タブキー、エンターキー、矢印キー）を使って操作ができるようにし、マウスの使用を前提としないこと。

<どんな問題があるか>

視覚や肢体に障害がある方は、マウスの操作が困難な場合があり、結果としてそのページから情報を得られないおそれがある。

(c) フォームの提供にあたっては、入力内容を明確にし、利用者が操作しやすいように配慮すること。

<どんな問題があるか>

フォーム入力を行う際に複数の入力パターンが考えられたり、何を入力したらよいか不明確な場合、利用者に余計な負担を強いるおそれがある。

<実装例>

・利用者に対してボックス内への入力方法（例：ひらがな、カクカナの別など）を明示したり、記入例を掲載することで、確実に入力ができるようにする。

なお、入力方法は「フリガナ」といった視覚に頼った情報提供ではなく、視覚障害者等の利用を想定し、「フリガナ（カタカナ）」といった配慮を行うこと。

・操作性向上のために、ボックス内にチェックを入れる場合は、label 属性を付与し、項目をクリックすればチェックが入るように関連づける。

label 使用例



男性

```
<input type="checkbox" id="check1">
```

```
<label for="check1">男性</label>
```

label を使用しない例



男性

```
<input type="checkbox" id="check1">
```

男性

<label>属性を付けることで、テキストの「男性」をクリックしてもチェックを入れることができる。

<label>属性がない場合、チェックを入れるためには小さなボックス内をクリックしなければならない。

<参考>

フォームへの入力作業が困難な人のために、メールや電話による受付といった代替手段を提供しておくことが望ましい。

(13) 動的なコンテンツ

- | |
|---|
| (a) 情報発信は利用者に情報の内容が伝わることを最優先として考え、見栄えをよくすることを目的とした動的なオブジェクトの使用は控えること。
(b) やむを得ない事情により使用する場合は、変化の速度設定に充分留意すること。 |
|---|

<どんな問題があるか>

- ・高齢者や障害のある人の中には、変化や移動を伴う画像やテキストを正しく認識できない場合がある。
- ・音声化ソフトの読み上げが終了する前に画面が切り替わってしまい、全ての情報を得ることができない場合がある。
- ・早い周期の画面点滅は、光感受性発作（光源性てんかん）を誘発するおそれがある。特に 20 ヘルツ（1 秒間に 20 回）の点滅に危険度のピークがある。また、赤と青を交互に点滅させると光感受性発作を誘発しやすいため、注意が必要。

(14) 読み上げに配慮した画面レイアウト

- | |
|--|
| (a) フレームによる画面分割はできるだけ行わないこと。
(b) やむを得ずフレームを使用する場合は、<noframes>要素により、フレーム未対応ブラウザのためのリンク設定を行うこと。 |
|--|

<どんな問題があるか>

- ・視覚障害者やロボット検索エンジンを使用してページを閲覧している利用者のページ間の移動を妨げるおそれがある。
- ・音声読み上げソフトを使用している場合、画面全体の構成の把握が難しく、必要な情報を得るまでに多大な労力を要するおそれがある。
- ・サイズが大きくなるため、表示に時間がかかったり、ブラウザによっては正常に機能しない場合がある。

(15) 音による情報提供

- | |
|-----------------------------------|
| 音声のみによる情報提供は避け、テキスト情報と併用して提供すること。 |
|-----------------------------------|

<どんな問題があるか>

- ・音声による情報が自動再生されている場合、聴覚に障害のある方や音声を消してページを閲覧をしている利用者には、情報提供がされていること自体が認識できない。
- ・警告や合図等が音のみで利用者に知らされている場合も、その情報が伝わらないおそれがある。

6 チェックシート

作成者は、データが「5 技術的な注意事項」に適合しているかを別添チェックシートにより確認すること。

7 その他

(1) 指針に規定されていない事項

指針に規定されていない事項でも、ブラウザソフト固有の機能、プラグインソフト、Javascript 等を使用するページについては、利用者側の環境によって、ページを完全

な形で閲覧できない可能性があるため、適切な対策を講じること。

(2) 公開前のチェック

サーバへのアップロード前に、PC側で表示等の確認をしてからアップロードすること。

HP作成ソフトの文法チェック機能や、チェックサイトを利用し、アクセシビリティのチェックを行ってから公開するなどの対策を講じること。

<参考>

HTML / XHTML の文法チェックを行うツール

[W3C Markup Validation Service](http://validator.w3.org/) --- <http://validator.w3.org/>

W3C によるチェックツール。作成したファイルをアップロードするか、URL を入力すればチェックが行われる。エラーがあればエラー内容が英語で表示される。

ここでは DTD に関する最低限のチェックであるから、誤りがあれば修正して、すべてパスするまで繰り返しチェックする。

[Another HTML-lint gateway](http://openlab.jp/k16/htmlint/htmlinte.html) --- <http://openlab.jp/k16/htmlint/htmlinte.html>

文法に関してかなり細かくチェックしてくれる。W3C と同様に作成したファイルをアップロードするか URL を入力すればチェックが行われる。返されてくる情報はよく見て確認が必要である。結果に納得ができれば、必ずしも 100 点満点でなくてもよいこととする。

[W3C CSS 検証サービス](http://jigsaw.w3.org/css-validator/) --- <http://jigsaw.w3.org/css-validator/>

HTML, XHTML のチェックとともに、CSS についても別途チェックする必要がある。CSS ファイルをアップロードするか、テキストとして貼り付けるか、URL で指定する。

目指すはWEBの標準化

- (1) メンテナンス性の向上
- (2) アクセシビリティの向上
- (3) SEO対策
- (4) ファイルサイズの低減とサーバスペース（容量）の節約
- (5) 互換性の確保

茨城県Webアクセシビリティ チェックシート

ファイル (URL) :

チェック日 : 年 月 日

確認事項	確認	関連JIS	備考(対応)
<ul style="list-style-type: none"> ブラウザの幅を800ピクセル程度にして2画面程度に収まる長さになっているか。 ブラウザの幅を800ピクセル程度にして横スクロールが発生しないか。 ブラウザの幅を800ピクセル程度にしてページ内の表示幅が切れないか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 実際にプリンタで印刷して想定どおりに印刷できるか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 使用する記述言語を指定しているか。 使用する文字コードを指定しているか。 		5.1.a	
<ul style="list-style-type: none"> スタイルシートが無くてもページ内容がわかるか。 		5.2.b	
<ul style="list-style-type: none"> ページの基本となる自然言語をlang属性で指定しているか。 文書中の文章や同等の役割を果たすテキストの自然言語が変わる部分がある場合には、その部分を自然言語で指定しているか。 		5.9.a	
<ul style="list-style-type: none"> 見出しタグやリストタグ、段落タグを適切に使用しているか。 見出しタグなどをレイアウト目的に使用していないか。 		5.2.a	
<ul style="list-style-type: none"> ファイル名やフォルダ名には半角英数を使用しているか。 ファイル名やフォルダ名は長すぎないか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> ページには、内容がわかる適切なタイトルがついているか。 		5.2.e	
<ul style="list-style-type: none"> ページサイズは100KB以内であるか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 文書以外で説明を行った方がよい項目はないか。 		5.9.f	
<ul style="list-style-type: none"> サイト内で共通のナビゲーションを提供しているか。 目次、ページの先頭、戻るリンクの位置、表示スタイル、表記に一貫性があるか。 		5.3.f	
<ul style="list-style-type: none"> パンくずリストを提供しているか。 ナビゲーションを提供しているか。 サイトマップを提供しているか。 		5.2.g	
<ul style="list-style-type: none"> ナビゲーションスキップの仕組みを取り入れているか。 		5.3.h	
<ul style="list-style-type: none"> 利用者の意図に反して、自動的にページを更新していないか。 利用者の意図に反して、自動的に別のページに移動していないか。 		5.3.e	
<ul style="list-style-type: none"> 利用者の意図に反して、新しいページを開いていないか。 		5.3.e	
<ul style="list-style-type: none"> 「上下矢印」キーで画面をスクロールできるか。 「Tab」キーで全てのリンク及び入力項目に正しい順番で移動できるか。 「Enter」キーでリンク先への移動やメニューの選択はできるか。 		5.3.a	
<ul style="list-style-type: none"> 単語の途中にスペースまたは改行を入れていないか。 ページ上ではわかりにくい場合があるので、音声読み上げで確認したか。 		5.9.e	
<ul style="list-style-type: none"> 日付・時間・通貨単位を漢字で適切に表記しているか。 ページ上ではわかりにくい場合があるので、音声読み上げで確認したか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 人名・地名や2とおり以上の読み方ができる単語の読み方を明記しているか。 		5.9.d	
<ul style="list-style-type: none"> 読みが難しい言葉には、読みを明記しているか。 利用者が理解しにくい言葉の意味を説明しているか。 		5.9.b 5.9.c 5.9.d	
<ul style="list-style-type: none"> 半角カタカナや機種依存文字は使用していないか。 		5.1.a	
<ul style="list-style-type: none"> 内容等に関する問い合わせ先が記載されているか。 		6.4 6.5	
<ul style="list-style-type: none"> ブラウザの文字サイズを変更した場合、文字の大きさが適切に変更されるか。 変更しない場合は、文字の大きさを絶対指定にしていないか。 		5.6.a 5.6.b	
<ul style="list-style-type: none"> 標準外の書体を指定していないか。 指定した場合、書体にばらつきはないか。 		5.6.b	
<ul style="list-style-type: none"> 背景と文字を同じような色にしていないか。 赤色と緑色などの見づらい配色をしていないか。 		5.5.c 5.6.c	
<ul style="list-style-type: none"> 「赤いボタン」など、色にのみ依存した表現をしていないか。 モノクロプリンタで印刷して内容が識別できるか。 		5.5.a	
<ul style="list-style-type: none"> 「○のボタン」「下のボタン」など、形や位置にのみ依存した表現をしていないか。 		5.5.b	
<ul style="list-style-type: none"> 1秒間2回以上の早い周期での画面の点滅をしていないか。 点滅・移動などをする表現は、一定時間経過後には停止するようになっているか。 文字の点滅やスクロール表示は使用していないか。 		5.8.a 5.8.b	
<ul style="list-style-type: none"> 異なる2つのリンクテキストの間はある程度スペースがあるか。 文字や画像はクリックしやすいサイズか。 		5.3.g	
<ul style="list-style-type: none"> リンク設定した文字からリンク先の内容がわかるか。 		5.3.g	
<ul style="list-style-type: none"> リンク設定した画像にリンクがあるか容易に理解できるか。 		5.3.g	
<ul style="list-style-type: none"> 同一サイト内は相対パスで指定しているか。 意図したリンク先が表示されるか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 意図したリンク先が表示されるか。 		-	

確認事項	確認	関連JIS	備考(対応)
<ul style="list-style-type: none"> 画像には代替テキストを設定しているか。 代替テキストを設定する必要のない画像には、代替テキストとして空白またはスペースを設定しているか。 画面上ではわかりにくい場合があるので、ツールを使用してすべての画像について確認したか。 		5.4.a	
<ul style="list-style-type: none"> リンク画像にはリンク先の内容がわかる代替テキスト情報を設定しているか。 代替テキストを設定する必要のない画像には、代替テキストとして空白を設定しているか。 画面上ではわかりにくい場合があるので、ツールを使用してすべての画像について確認したか。 		5.4.b	
<ul style="list-style-type: none"> イメージマップを使用する場合には、必ずイメージマップ全体と各リンク部分に代替テキストを設定しているか。 イメージマップを使用する場合には、文字によるリンクを同一ページに作成しているか。 		5.4.b	
<ul style="list-style-type: none"> ファイルのタイトル、種類、サイズが明記されているか。 PDF形式の添付ファイルでは1MBを超えていないか。 PDF以外の形式の添付ファイルは500kBを超えていないか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 添付ファイルの内容と同等の内容のページやテキスト形式で提供しているか。 添付ファイルはPDF形式を優先して提供しているか。 添付ファイルは元の形式のファイルとPDF形式にしたファイル両方を提供しているか。 添付ファイルのタイトル、ファイル形式、ファイルサイズを明記しているか。 		5.1.b 5.4.e	
<ul style="list-style-type: none"> 添付ファイルを開覧するためのプログラムのダウンロードページへのリンクを、添付ファイルへのリンクがあるページと同一ページに用意しているか。 		5.1.b 5.4.e	
<ul style="list-style-type: none"> 表を結合したり、入れ子状にしていないか。 音声読み上げブラウザでの確認やテーブルレイアウトをはずした画面で確認したか。 		5.2.c 5.2.d	
<ul style="list-style-type: none"> フレームを使用した場合、フレームをサポートしていないブラウザのために、同じ役割を果たす内容を提供しているか。 各フレームに役割が明確になるようなタイトルをつけているか。 		5.2.f	
<ul style="list-style-type: none"> 音声情報にはテキストで、同等の情報を掲載しているか。 動画情報には音声およびテキストで、同等の情報を掲載しているか。 		5.4.c 5.4.d	
<ul style="list-style-type: none"> ページに自動再生のBGM音声を埋め込んでいないか。 音声情報や動画情報には再生・停止・一時停止・スキップ・音量調節など、利用者が出力を制御できる機能を提供しているか。 ループ再生をしていないか。 再生中であることを利用者にテキスト等で明確に伝えているか。 		5.7.a 5.7.b	
<ul style="list-style-type: none"> ラベルはわかりやすい位置に配置してあるか。 ラベルをフォームの構成部品に関連づけているか。 		5.3.b	
<ul style="list-style-type: none"> プルダウンメニューをキーボードの操作だけで選択・移動できるか。 		5.3.a	
<ul style="list-style-type: none"> クリアボタンを提供しているか。 入力内容の確認画面が表示されるか。 		5.3.i	
<ul style="list-style-type: none"> 入力時間制限を設けていないか。 入力時間制限を設けている場合、その旨案内しているか。 		5.3.c	
<ul style="list-style-type: none"> フォーム以外の受付手段を明記しているか。 		5.3.d	
<ul style="list-style-type: none"> 特定の技術やプラグインを使用した情報に、代替テキストを指定しているか。 同等の情報(役割)を持つ別のページを作成して、そのページへのリンクを明示しているか。 メニューの場合はテキスト情報でも提供しているか。 		5.4.e	
<ul style="list-style-type: none"> 専用のプラグインソフトのダウンロードページへのリンクを同一ページに用意しているか。 		5.1.b 5.4.e	
<ul style="list-style-type: none"> 目的のコンテンツが特殊な条件を入力することなく検索可能か。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> サーバーやシステムに適切なセキュリティ対策や検証が行われているか。 個人情報等を収集する場合、何らかの認証を設定しているか。 収集した個人情報等の取り扱いについて、説明したページが作成されているか。 		-	
<ul style="list-style-type: none"> 作成したページを、WindowsやMacOS、Internet ExplorerとNetscape、Safariなどで確認したか。 		6.3	
<ul style="list-style-type: none"> 新規で作成する場合や委託事業者等が作成する場合、対応すべき項目を確認したか。 		6.1	
<ul style="list-style-type: none"> 追加作成や更新されたページが適切に対応されているか確認したか。 		6.2	
<ul style="list-style-type: none"> 作成したページを各種確認ツールでチェックし、問題がないか確認したか。 		6.2 6.3	
<ul style="list-style-type: none"> 作成したページの代替情報を表示し、現状に沿っているか確認したか。 		6.2	
<ul style="list-style-type: none"> 定期的にサーバー内のファイルの状況を確認し、不要なファイルがないか確認したか。 		-	

参考文献

- ・ 茨城県ホームページ基本ガイドライン 茨城県
- ・ みんなの公共サイト運用モデル 総務省
- ・ 「公共分野におけるアクセシビリティの確保に関する研究会」報告書 総務省
- ・ Webアクセシビリティ JIS 規格完全ガイド 日経 BP 社
- ・ ここから始めるWebアクセシビリティ (株)ユーディット
- ・ ウェブ・ユーザビリティ&アクセシビリティ・指針 毎日コミュニケーションズ
- ・ プロとして恥ずかしくないWEBデザインの大原則 MDN・ムック

2007年1月16日 発行

茨城県知事公室広報広聴課

県民情報センター室 県政情報担当

茨城県水戸市笠原町978番6

電話 029-301-2140 FAX 029-301-2169

<http://www.pref.ibaraki.jp/>